赤塚中学校区第２回学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

C・S だより

令和８年９月25日
三校合同発行

８月３日(月)、赤塚中学校を会場に、令和８年度赤塚中学校区保・小・中連携推進協議会夏季研修会兼学校運営協議会小中合同会が開催されました。

この研修会は、昨年に引き続き「赤塚中学校区の６つの園・校の職員が、『保小中一貫教育で伸ばす・育む非認知能力』を共通テーマにして研修することを通して、それぞれの園・校の実践がつながり、系統性のある保小中一貫教育を目指すきっかけづくりとする」ことをねらいとして実施されました。

開会のあいさつの中で、赤塚中学校〇〇校長から、「昨年の研修会を受けて幼保小の架け橋プログラムへの意識が高まり、こども園と小学校低学年の先生が連絡を取り合う場面が出てきた」と報告がありました。

また、「昨年度の保・小・中連携推進協議会運営委員会において校区の抱える問題として、生活習慣に関わる内容といじめの対応があげられ、それらについては、保小中と地域で考えるべきであるとの提案が出された」と話しました。それを受け、今回の研修会では、まず全体会でいじめの未然防止等について研修を行い、その後【生徒指導部会】【学校保健部会】に分かれ、それぞれの課題について話し合いを行いました。

全体会及び各部会の様子についてお知らせします。

全体会『ビデオ研修会』　テーマ：非認知能力から考えるいじめの未然防止

研修会では、「自分を知り、相手を想う力を育てる～非認知能力から考えるいじめの未然防止～」と題して、Nordic Educations 代表　徳留宏紀様によるビデオ講演を赤塚中学校区各校の学校運営協議会委員と６つの園・校の教職員、総勢５４名が聴講しました。

講演では、「子どもが自分と他者を大切にできる力を、日常の中で育てていく。その積み重ねが、結果としていじめの予防につながる」として、「保育・教育現場で子どもの非認知能力を育むために何が必要か」、「どのように非認知能力は育まれるか」等について話されました。また、互いを尊重し、支え合い、学び合う関係性。一人ではなく、チームでよりよい実践と成長を目指す力【同僚性】についても話をお聞きしました。

講演の終盤では、それぞれの校種において講演の内容と関連していることをシェアし合う時間があり、それぞれのグループで活発な話し合いが行われていました。

【ビデオ研修会の様子】

【それぞれの校種でのシェアの様子】

第１分科会『生徒指導部会』　テーマ：いじめを防止するために、学校・家庭・地域でできること

各校で共通して取り組んでいることを報告後、６グループに分かれて意見交換をしました。

【話し合いで出された意見】

○子どもの良いところを見つけ、認めたり褒めたりする。
○学校では、ふわふわ言葉、ちくちく言葉の例を掲示したり、いいところ探しをしてシールを貼るなど見える化する。
○日頃からコミュニケーションを大切にして気持ちを伝え合う。
○家庭を基盤とした、小さい時の愛着形成が大切となる。
○お互いの良さを認め合う取り組みを大切にする。
○「ありがとう」など、感謝の気持ちを伝え合う。
○大人が手本となり、良い人間関係づくりを進める。
○地域で活動できる場があると、そこで地域と子どもの関係ができる。関係性が築けると地域の人も注意でき、子どもも地域の人に相談しやすくなる。

第２分科会『学校保健部会』　テーマ：『子どもたちの健やかな未来をまもるために睡眠・メディアに関わる生活習慣について　学校・家庭・地域でできること』～児童生徒・保護者アンケート結果と小児科医の提言から考える～

木山小学校養護教諭より、令和７年１２月に赤塚中学校区の児童生徒およびその保護者を対象に行った日常生活習慣に関するアンケート結果、及びそれに対するよいこの小児科さとう　佐藤勇医師の提言を聞いた後、７つのグループに分かれ、メディアコントロールについてそれぞれの立場でできることについて話し合いました。

〈アンケート結果より〉

○睡眠不足感・日中の眠気　…　中学生は９０％、小学生でも４５％が自覚
○日頃よく感じる心身の主要症状　…　１位は中小学生共「朝起きるのがつらい」

〈佐藤勇医師の提言より〉

○必要な睡眠時間　…　中学生は８時間　小学生は９時間必要
○睡眠中の脳の４つの仕事　…　記憶の定着・脳のゴミ出し・感情のリセット・成長ホルモンの分泌

佐藤勇医師のコメントより

大人も含めて、睡眠の大切さをぜひ考えてみてください。不適切なメディア利用が睡眠障害の一因であることも理解いただきたい。

タブレットやスマホを置いて野に出たり、人との関係を作ったりすることが成長にはとても重要だと思います。